

2017年度 学校評価（自己評価）

横浜隼人中学・高等学校

1. 学校は学科やコースの特性に応じた教育を実践している

保護者は90%を超えて良好な回答をしています。各コース目標に応じた進路指導と教科指導が評価されてのこととと思われますが、より効果的な実践により更なる学力向上に繋がっていく必要があります。

2. 学校は緊急時の対応について必要な訓練や指導をしている

主に年2回実施する避難訓練を通しての評価と思われます。教員の半数以上が「あまりあてはまらない」「あてはまらない」の回答しているのは、学校が災害時の発電機、簡易トイレ等々の備えを少しずつでも確実にしていることがあまり周知されていない結果と思われます。いざという時のために教員に保管場所、保管物品、使用法を研修する必要があります。

3. 学校はいじめや暴力のない学校づくりに取り組んでいる

情報モラルの低さから問題を生ずることが多く、この点に関しては更なる指導の徹底が必要です。生徒アンケートは「あてはまる」「ややあてはまる」が92.7%と、学校の取り組みを大変高く評価しています。いじめや暴力のない安心して生活できる学校であることを継続し、尚一層安心感を持てるように生徒一人ひとりに目を配っていくことが大切です。

4. 学校は校内や通学時の安全に常に配慮している

「登下校の指導」、「交通安全講習会（高校1年）」、「自転車通学者の安全講習」等々を通して安全な登下校に取り組んできました。最近では自転車の事故が多く、被害者になる場合だけでなく加害者になるケースもあるため、自転車通学者には特に安全意識を高める必要があります。

5. 学校は個々の生徒の進路に適した教育課程を用意している

コース制や選択教科など幅広い進路に対応できる教育課程であるのに反して、3割以上の生徒が悪い評価を出していることを受けとめ、その理由を分析し問題点を明確化していく必要があります。

6. 学校は進路について個々の生徒に対して丁寧な指導をしている

生徒・保護者に対する進路説明会や三者面談等々は適切に行われていることで、生徒・保護者とも一定の評価がなされています。しかし、教員一人ひとりの経験値・指導力には差があり、個々のスキルアップと若い教員のバックアップ体制充実が今後の課題です。

7. 学校での授業や補習はわかりやすく、学力向上に結びついている

生徒アンケートは3分の1以上が否定的な結果です。次年度から各教員の教授力向上を目的とする研修等を強化します。更に生徒の自主的・自発的な学習姿勢を育てることも重視していきます。また、授業、補習、部活動等々の時間配分の効率性も改善点があるか検討します。

8. 学校は教科に関する個別の質問に熱心に対応している

3者とも良い評価が約8割となっています。授業中の対応だけでなく、職員室前設置の学習スペースなども役立っていると考えられます。より落ち着いた状況で学習できる環境として自習室の拡充など検討も必要です。

9. 学校は生徒の悩みや相談に親身になってくれる

担任教諭や養護教諭のきめ細やかな対応が実践され、またスクールカウンセラーを増員したことにより、3者とも良い評価となっています。カウンセラーのニーズが高く、予約がなかなか取れない状態が続いているため、更なる増員の検討が必要です。

10. 学校は生徒に規律ある姿勢や態度を育てる指導をしている

規範精神のある生徒が多く入学していること、入学時から「挨拶の励行」を指導し来校者から賞賛されていること、部活動の加入率が高く部活動を通しての躰が徹底されていること等々で、規律ある学校生活が実践されています。今後も継続されることが大切です。

11. 学校行事は内容が充実しており、適切な時期に実施している

生徒の半数近くが悪い評価をしています。本校の印象を「テストが多く、楽しい行事が少ない」と聞くこともありましたが、アンケート結果もその言葉を裏付けているようです。「安全安心」、「授業時数確保」と並んで「楽しい」も学校生活には重要で、それをどのように演出していくかが肝要です。

12. 学校は部活動・委員会活動・特別活動等に積極的に取り組ませている

次年度より公立では活動日数、休日の活動、活動時間が制限されます。私学の本校が今後どのようにしていくか、早急な検討が必要となります。

13. 学校には教育に必要な施設・設備が整っている

教員と保護者の評価が相反する結果となっています。教員は教育環境を今以上に改善し、生徒のために更なる学習環境の充実を望んでいることが読み取れます。ICT教育環境整備を急ぎます。

14. 学校は衛生的できれいな環境を整えている

3者とも良い評価となっています。今年度の本館全トイレ改修に加え、生徒の日頃の清掃、業者清掃・ワックス掛け等々の実施だけでなく、日頃からゴミを落とさない、落ちているゴミに気づけばすぐ拾うなど環境を保つ習慣が、生徒・教職員ともに備わっている結果と思われます。この状態が維持されることが大切です。